



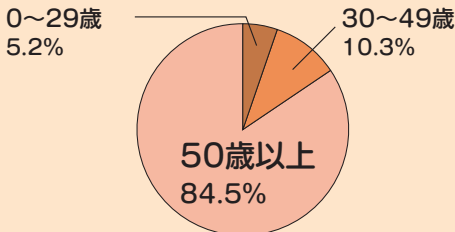
高校生のみなさん！献血にご協力を！



今、時代は少子高齢社会。しかし、若年層の献血者が減少しています。この状態がずっと続くと、どうなるのでしょうか？

血液を必要とする人

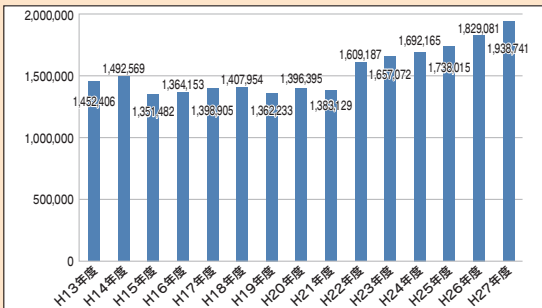
輸血を受ける人の年齢



(平成27年 東京都福祉保健局調べ)

輸血を受ける人の約85%は、50歳以上です。高齢化が進むと、輸血を受ける人が多くなります。

免疫グロブリン製剤の供給量の推移 [単位：本（2.5g）瓶換算]



また、代表的な血漿分画製剤の1つである「免疫グロブリン製剤」は、ここ数年必要とされている量が増えています。

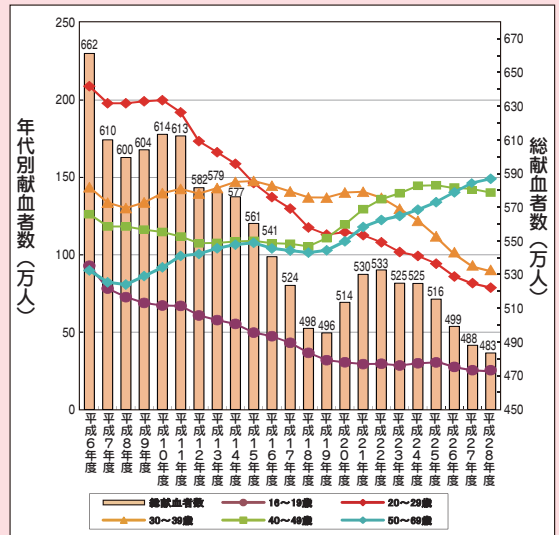
献血者が少なくなり、患者さんに血液製剤が届けられない事態にならないためにも、一人でも多くの方、特に若い世代の方に、献血に協力してもらう必要があるのです。

あなたの献血で、多くの患者さんの命が救われます。
皆様のご協力をお願いいたします。

○事情があって献血ができないという方へ○

家族や友達に「献血」について話したり、SNSで拡散したり、献血の呼びかけを行う献血推進ボランティアに参加したりするなど、様々な献血への参加の仕方があります。あなたの献血に対する思いが誰かを救うきっかけとなります。ぜひご協力をお願いいたします。

献血をする人



今まで輸血を支えてきた30代以上の献血者は、だんだん「輸血を受ける側」へシフト。
一方で、10代・20代・30代の献血者は、減少傾向にあります。

【教員の皆様へ】
参考資料（20頁）をご参照ください